

グループホーム [マリンヒルズうつみ] 1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471503239
法人名	有限会社 ユー・アンド・ミー
事業所名	グループホーム マリンヒルズうつみ
所在地	福山市内海町口1966-1 (電話) 084-980-9345
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 20 年 5 月 29 日

【情報提供票より】(20 年 4 月 26 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 13 人 非常勤 7 人 常勤換算 13.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (八百円以上か)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1000 円	

(4) 利用者の概要 (4 月 26 日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	3 名	要支援2	1 名
年齢	平均 81.6 歳	最低 59 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福山友愛病院・多田医院・木下メディカルクリニック、黒瀬デンタルク
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年 6月20日

広い海と緑いっぱいの山に囲まれ、素晴らしい環境にあり、庭のテラスで珈琲を飲みながら、海を眺めゆったりと過ごしている。またリビングや居室からも一望でき、心身共に安らぎを感じる。「笑いと楽しみのある生活、思い出を大切に無理はしない」という理念を管理者、職員は共有され日々実践に向け取り組んでいる。自らが認知症になった時を考え、利用者の立場でのケアに心がけている。清潔第1に考え、隅々まで清掃が行き届き、清潔感あふれる事業所である。立地条件を活かした工夫をし、職員の異動もあまりなく、利用者との信頼関係が築かれている。運営者、管理者、職員は一丸となり、笑顔と思いやりの溢れる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価を基に、できるものから改善に向け取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ヒアリングやミーティングで職員の意見を聞き管理者が作成している。その中で気付いたことは、改善に向け取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は系列の小規模多機能事業所と共同で定期的開催されている。市町村担当者をはじめ、地域包括支援センター、自治会長、利用者家族、民生委員等、外部評価の取り組み状況の報告を行い、それぞれの立場の意見を聞き、職員カンファレンスの中で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の訪問時、家族会で意見や要望、苦情などを聞き取っている。その中で出された意見や要望についてはカンファレンスの中で検討し、運営に反映するよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との付き合いは自治会に入会し、地域の行事にも利用者と参加し、交流に努めている。周辺道路の清掃をしたり、また散歩時は声掛けをしながら、顔見知りの関係に努め、地域に溶け込む努力をしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社長が事業開始時作成された理念となっている。		基本理念を基に地域密着型サービスとしての理念を加えられることを望む。
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの中で毎回確認し、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事や老人会行事、地域のお祭りの中で利用者と共に歌の披露をし交流を図っている。近隣の方から野菜を持ってきてもらえるような関係づくりができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず管理者が作成しミーティングで各項目を検討して作成している。外部評価については、話し合いをしながら、気づきについては改善に向け取り組まれている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能事業所と合同で実施されている。メンバーに自治会長をはじめ、行政担当者の参加もあり、事業所の抱えている問題点など提示し、意見をもらっている。また、アンケートを取り、意見や要望が出し易い工夫をして、運営に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支所には月1回でむき、関わりは十分できている。担当者顔なじみの関係ができおり相談しやすい。運営推進会議にも参加されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回請求書を発送する際、日々の暮らしぶりや健康状態等報告している。ホームだよりを毎月発行し、職員の異動についてもその中でお知らせしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、ミーティングの中で話し合ったり、家族会で意見を聞いている。それらを基にカンファレンスの中で検討し、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力異動のないように心がけている。ユニット間での行き来があり、日常的に顔見知りの関係ができているので、ダメージがない。やむを得ず離職の場合には、利用者十分に話し合うよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は順番に参加している。研修内容はレポートを提出し、ミーティングの中で周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者地域会に加入し、同業者との交流はしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者の希望に応じてお試し入所してもらい、納得した上で利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	人生の先輩として、感謝の言葉をかけてもらったり、会話の中で、いろいろ教えてもらっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	スキップを大切にし、表情などで思いの把握に努めている。困難な場合には家族に生活歴を聞き、本人の希望に添うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	アセスメントをし、必要な利用者についてはカンファレンスを開き担当職員の意見を基に、話し合い作成している。家族に説明をし、意見があれば取り入れている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	通常3カ月に1回見直しをしている。状態に変化があれば、随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況や希望により、医療機関への通院等、ライフサポートや事業所で対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医(4か所)から往診してもらっている。歯科の往診も随時行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族、職員と終末期の対応について話し合い、共有している。運営推進会議の中でも問題を提示し話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮し、個々にあった対応をしている。個人情報の配慮に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を言える方は少ないが、できるだけその人の希望に添うよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けなど利用者に来ることはしてもらっている。介助の必要な人が多いため、職員と一緒に食事はとれないが、声掛けをしながら楽しい雰囲気です。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望によりできる範囲内で対応している。基本的には午前中に行っている。健康状態で清拭し、保清に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、買い物などは希望で常時対応している。菜園など職員と共に行っており、それぞれの力量に応じた役割を持てるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車いす用の車両もあり、なるべく全員外出できるよう努めている。月1回外食したり、ドライブをしながら戸外に出かけるよう取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常はドアは開放しており、徘徊傾向のある方も把握され、見守りを重視し対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は伝達研修を行い周知しているが、避難訓練は計画中である。非常食については常備している。		避難場所の確保はされているが、消防署と協働し、計画に沿って早期に実施されるよう取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は1000ccを目標に対応している。栄養バランスについては月1回調理師、食事担当者、利用者が参加し、食事会議を開き、検討する仕組みとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾るなど、季節感を取り入れている。常に清掃に心がけ、事業所全体が清潔である。不快な匂いもなく、気持ちよく過ごせる共有空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の思い思いの物品が持ち込まれ、希望に沿って畳の部屋もあり、居心地よく過ごされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム マリンヒルズうつみ (ユニット1階)

評価年月日 2008年 5月 29日

記入年月日 2008年 4月 28日

記入者 介護支援専門員 氏名 中崎 信子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	普通の生活をしていただく。笑いと楽しみのある生活をしていただく。みんなの生活に歩調を合わせる。思い出を大切に、無理をしない。を理念とし、私たちはいつも心がけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、わかりやすく表現し、スタッフルーム及びデイルームに表示している。		月1回の職員カンファレンス時に再度全員で読むなどし、定期的に確認を行いたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、家族会を通じて、理解してもらえよう取り組んでいる。また、家族来訪時にホーム内に掲示してある理念をみてもらったりしている。地域の人々に対しては、家族会の構成員である地区自治会長や民生委員の方に理念を理解してもらおうことにより、浸透してきている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	散歩途中など気軽に声をかけあったりしている。また、地域の方が散歩途中にホーム庭で休憩したり、利用者や職員と話をしたりと日常的なつきあいができている。地域のマラソン大会では庭を休憩場所とし、トイレも自由に使用できるよう開放している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーに地区自治会長が在籍していることもあり、敬老会での歌の披露など地区の行事に積極的に参加することができている。また、共に周辺道路を掃除したりし、積極的に交流を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者の農作業を手伝ったり、近隣道路の草刈をしたりしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価において不十分だった点、外部評価において指摘のあった点等事業所として、よりよいサービス提供を目指し改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者やサービスの実際等についての報告や話し合いを行うと共に、評価への取り組み状況等について報告等を行い、運営推進会議で出た意見を職員カンファレンスの中で話し合い、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>常時、市町村担当者とは行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度については、ホーム入り口にパンフレットにおいて必要な方には持って帰ってもらい、契約時に必要な方には制度について説明をおこなっている。職員への説明や研修が少し不十分である。</p>		<p>職員カンファレンスの中で権利擁護に関する制度理解と活用について社会福祉士による説明会を行うことを計画している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員カンファレンスの中で高齢者虐待防止関連法の伝達研修を実施しているが理解が不十分である。</p>		<p>社内研修を次月度以降に行う予定である。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解を得てもらった上で、契約書等の署名をしてもらっている。ケアマネはグループホーム入所困難者や一人暮らしの人等の次の入院、入所先を決め相談に乗り、定期的に後の支援をしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や苦情は記録し、問題点や改善策を利用者相談委員会の中で協議し、対応している。また、市町村の苦情窓口も重要事項説明書に記載し、ホーム玄関にも掲示している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヵ月ごとの介護計画の説明、同意と同時に、定期的に家族へ報告を行っている。また、家族会開催時や健康状態等変化時や家族訪問時には、随時報告を行っている。預かり金の出納については、領収書のコピーと金銭利用状況を月1回家族に郵送し報告している。職員の異動等については、月1回発行のホーム便りで報		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の協議の中及び家族訪問時に召集した家族からの意見等は真摯に受け止め、できる限り運営に反映させている。外部者へ表せる機会については、契約時に重要事項説明書の中で、市町村の苦情窓口及び第三者（内海福祉在宅福祉センター）の苦情窓口を説明している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のカンファレンスの中で意見や提案を聞き、職員間で話し合った上で可能な限り実施している。また、職員から運営者及び管理者に口頭で言いにくい意見もあるので、スタッフルームに意見箱を設置し、意見を文書で聞く方法も実施している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	話し合いをし、勤務調整を行っているが、職員の確保に苦慮している時間帯もある。本部よりヘルパーの派遣支援を受けている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は現在ほとんど実施していない。離職も必要最小限に抑える努力をしている。管理者の交代は開設以来実施していない。離職をする際、必要な利用者には伝え、離職する職員と利用者の方に話し合いをする機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修については、運営規定の中で毎年計画し、実施している。法人外研修については、管理者、職員とも随時受けさせてもらい、研修報告書を提出している。今年、社会福祉士1名、介護福祉士1名資格取得し、現在、法人内に勤務しながら介護福祉士、認知症ケア専門士の資格取得を目指している職員が数名いる		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな管理者及び職員研修に参加させていただくことにより、地域の同業者と交流し、徐々に相互訪問が現実のものとなってきた。また、地域高齢者ケア会議に出席し、現在、ネットワークづくりとサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のみが休憩できるスペースが確保されている。また、管理者及び職員のための親睦会も年数回ある。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者である社長も、月数回日勤帯及び夜勤帯の勤務及び職員カンファレンスへの参加をすることにより、管理者及び職員の努力や勤務状況を把握している。また、各自に向上心を持って働けるようなアドバイスをしたり、資格取得をすすめている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から困っていることや不安なことを相談時に聴ける場合は聴き、できる限り希望に添えるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時または利用に至るまで随時、家族の困っていることや希望を聴き、できる限り希望に添えるよう努力している。また、家族会の運営状況も相談時に説明し、利用後の体制も説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者判定基準チェックリストにより、より入居が必要な方を見極め、他のサービスによる支援の方が必要であると思われる方については他のサービスを紹介したり、医療機関（精神科等）受診をすすめたりという対応を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が女心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人又は家族がサービスの利用に不安な場合は「お試し入所」というかたちで契約前に雰囲気を感じてもらうことも実施している。また、職員は利用者の生活歴や生活環境を確認し、その人にあった接し方をし、馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、肩をもんだり、もんでもらったりする等共に時間を過ごし、信頼関係構築に努めている。また、職員が生まれていない時代の出来事を利用者から聴いたりし、喜怒哀楽を共にし、学ぶことは多々ある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	イベント時は家族会を通じ、それぞれの家族に声をかけ、参加していただける家族には参加してもらい、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いていくことに努めている。また、家族訪問時には随時コミュニケーションをとっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の健康状態が変化した場合だけでなく、本人が良い状態（笑顔が増えた等）になったときも、家族訪問時や電話で報告しよい関係が続くよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中のドライブ時に各利用者の住んでいた地域に出かけ、その地域の場所や人を説明してもらう等し、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	月1回の職員カンファレンスや朝、夕の申し送り事項の中で、利用者同士の関係に変化があったことなどは職員間で確認している。また、朝の体操、イベントなど利用者同士が関わりあう場をつくり、支えあえるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関入院等による契約終了者は、医療機関を訪問した際に立ち寄りコミュニケーションをとったりし、つきあいを大切にしている。また、退院後再入所のケースも多々ある。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族に希望や意向を聴き、介護計画を立案している。また、日常のケアの中で随時、意向の把握に努めている。困難な場合は、手を握ったり、表情で確認したりしている。さらに、毎月1回のケアカンファレンスの中で、利用者の立場にたち検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の申し込みの際、アセスメントを行い、生活歴や生活環境やサービス利用の経過など家族及び本人に聞き、記録している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各職員担当利用者を決め、把握するよう努めている。また、心身の状態等は介護日誌に記録している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向や医師の指示を反映し、介護計画を作成している。また、職員ケアカンファレンスの中で話し合ったケア方法等も介護計画に活かしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1回見直しを行っている。状態等変化が生じた場合にはその都度、話し合いをした上で、計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等時間帯別に個別の介護日誌に記入し、情報を共有しながら、介護計画の見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅帰省時のライフサポートの利用等多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の警察署には利用者不明時の協力をお願いしている。消防署には消防計画の作成相談や点検報告など定期的に訪問し、アドバイスをいただいている。また、創立記念日には地域の保育所の園児を招待し、交流する機会をつくっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	金銭的理由や嚔下状態の悪化等の場合、地域の他のケアマネ等と話し合い、他のサービスを利用するほうが望ましいが等本人の意向も確認しながら協議し、他のサービスを利用するための支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援2の利用者においてケアマネジメントをしてもらっている。運営推進会議に地域包括職員に参加してもらい意見交換している。		さらに、地域包括支援センター及びサブセンターと協働する機会を増やしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	やむを得ない場合を除き、入居時に主治医を変更してもらうことはない。現在5病院の往診がある。また、往診のない医院が主治医の場合やNS判断による受診必要時には受診支援をしている。さらに、訪問看護ステーションの看護師による健康管理も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院の1つが認知症の専門医院である。ケアマネ、運営者が認知症実践者研修に参加、終了している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護職員、訪問看護ステーションの看護職員及び往診医療機関の看護職員と気軽に相談しながら、健康管理や医療活用の支援を行っている。訪問看護、医療記録をつくっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者等が入院時、定期的に医療機関に訪問し、本人への心のケアや病院関係者との情報交換をしている。また、家族が遠方等の理由で医療機関に行けない場合は、タオルを交換しに行ったり、衣類を持って行ったりという支援をしている。地域ケア会議で病院関係者の出席があり連携をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を契約時に書面及び口頭で説明し、重度化した場合は、本人、家族、主治医と協議し、方針を確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者については、特に慎重に職員カンファレンスを行うと共に、主治医の指示や看護職員の意見を取り入れ支援している。また、他のサービス利用の方が望ましいか等検討し、必要時には他のサービス事業者の職員に状態を確認してもらっている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境を変えることが望ましい場合等、本人及び家族、主治医等と十分な話し合いをした上で、住み替えを行ってもらっている。入居時のアナムネ、在宅での居室の様子をきいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー保護のマニュアルがあり、入社時に研修を実施している。自尊心を尊重したケアを行い、個人情報については、職員に誓約書を書いてもらうと共に確実な取り扱いを行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>希望を表せるような声かけをしたり、認知症の状態等によりその人に合わせた説明等を実施している。また、できるかぎり本人に納得して暮らしてもらえるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>散歩したい、ドライブに行きたい等できる限り各利用者の希望に添えるような支援をしている。また、理念にもあるようにそれぞれの利用者の歩調に合わせた支援をしている。さらに、朝食は決まった時間を設定せず思い思いの時間（6時以降）に食べてもらっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>介護側の都合による衣類は使用してもらわず、思い思いの衣類を着てもらっている。理美容店への送迎は希望者には随時おこなっている。また、ホーム内散髪も行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の下処理や配膳、下膳、茶碗ふき等は可能な方には職員と共に実施してもらっている。食事（昼、夕食）は現在、利用者と職員は別の時間帯になっている。イベント時（花見、バーベキュー等）は共に食事をし、食事の楽しみを共感している。</p>	<p>イベント時等共に食事をとる回数を増やしているが、食事介助必要者の人数やダイルールのスペース上、通常の食事を共にすることはできていない。職員及び利用者の協力を得て、実施に向けて取り組んでいきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物、おやつ、たばこ等は好みのものを状況に合わせて楽しんでもらっているが、お酒は病歴にアルコール依存症の方が数名在籍しているため、現在禁酒としている。たばこは職員が確認して渡している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>日中はできるだけ自立によるトイレでの排泄をするよう支援している。夜間は必要に応じ居室にポータブルトイレを設置し、おむつの使用をできるだけ減らし、気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望があれば、その都度健康状態確認後、入浴を楽しんでもらっている。また、貝堀り等で衣類が汚れたりしたときは、夜間等必要に応じた入浴支援をしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>換気や空調にも配慮し、休息や安眠できるよう支援している。また、室内にできるだけ臭いが残らないように各職員が配慮（換気等）してる。さらに、夜の就寝時間は自由にしてている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>洗濯物たたみやカラオケ、園芸活動、散歩、朝の体操、日光浴等それぞれの生活歴や力を活かしたことを実施してもらっている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や力に応じて、可能な範囲でお金を所持してもらい買い物などで使えるよう支援している。本人及び家族がホーム側で預かってほしいという方に関しては、ホーム側で預かり金として預かっている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物、散歩、日光浴、ドライブ、地域行事への参加等できるかぎり戸外へ出かけられるよう支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族の墓参りや受診したい病院等遠方であっても機会をつくり対応している。また、ドライブ希望があれば、できる限り対応している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者は電話を日常的に使っている。手紙については、字がうまく書けない人の代筆も行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間は設定せず、家族等がいつでも気軽に訪問できるようにしている。また、庭のテラスで共にコーヒーを飲んでもらったりし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の日誌に毎日身体拘束がないかチェックしている。また、身体拘束禁止委員会を設置し、禁止の対象となる行為がないか毎月チェックしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室に鍵はなく、日中は玄関は施錠せず自由に入居者も出入りしている。また、気候のいい時期は扉を開放している。夜間のみ防犯上玄関は施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員1人に対し3人の利用者を把握するようにしている。また、1日4回全利用者の所在確認をし記録している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に注意が必要な物品はスタッフルームで管理しているが、その人の状態に応じてはさみ等所持してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのマニュアルをスタッフルーム内に掲示し、周知している。行方不明については、職員による手分け捜索経路も周知している。また、災害時の対応を学ぶため、全職員消防署による救急救命・心肺蘇生講習を受講。消火訓練も実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	誤嚥したときの応急処置など管理者及び看護職員から職員へ実演研修を行い、周知した。事故発生時の対応マニュアルも整備している。消防署の協力を得て、救急救命講習を実施。		新規採用職員への実演研修や訓練が未実施であるので、次月度には実施したい。また、今後定期的に行うことを計画している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域及び他施設と連携し、万が一のための避難場所を確保している。ライフラインがストップした時の非常食は常備している。地域自治会に災害時の協力依頼をお願いし了承を得ている。		消防署と協働し、避難訓練を計画中である。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の危険性があること等契約時に家族に説明している。また、状態が変化したとき（嚥下状態低下等）など、家族の意向を確認し、対応を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝すべての利用者のバイタルチェックを行い、また、数値変動者等は1日3回のバイタルチェックを行っている。入浴時にもその都度皮膚の状態確認を行っている。体調の変化があった場合は、個別ファイル及び申し送り生活記録に記載し、確実な情報の共有を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬状況は、個別ファイルに処方箋をファイルし、各職員が確認している。また、薬の内容が変わった場合は、申し送り生活記録に記載し、朝、夕2回伝達を行い、服薬状況を各職員が確認している。薬が変わったことにより、利用者の症状が変化した場合は、適宜、看護職員から主治医に連絡を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	確実な水分補給、散歩等の適度な運動、服薬による予防等を行い、便秘の予防に努めている。嚥下状態が悪い利用者には、寒天ゼリーによる水分補給を実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ、毎食後口腔ケアを行っている。また、入れ歯は、最低週1回は消毒し、清潔保持に努めている。さらに、口腔内に変化が生じた場合は、随時、歯科医院に連絡し、往診してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、利用者ごとに毎食後記録し、確認している。摂取量が不足している方にはエンシュア等を摂取してもらい、栄養摂取の支援をしている。水分については、定期時間及び有熱時等は随時行うと共に、希望者にはペットボトルにお茶を入れ、所持してもらい、1日最低1回はお茶を交換している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のため、インフルエンザ予防接種は、全職員、全利用者(家族確認後)に行っている。また、他の感染症を予防するため、玄関での手指のアルコール消毒、手洗い・うがいの励行、食器、ふきん等の塩素消毒を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具は使用後塩素消毒を徹底している。また、調理に携わる職員及び利用者は、手洗いを確実にを行い、アルコール消毒後、作業している。食材は、冷蔵庫及び食品庫に保管し、先入れ先出しを徹底すると共にできるだけ短期間で使用するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 事 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は庭は開放し、利用者、家族及び地域の人がいいつでもゆったりして過ごせるよう、イス、テーブルを置き、また常に草花をたくさん配置し、楽しめるようにしている。また、気候のいい時期は玄関扉を開放している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやダイニングセット等家庭的なものを使用し、デイルーム等共有スペースには常に季節の草花を飾るようにしている。また、共有の空間にイベント時の写真を飾ったりし、常に家庭的な雰囲気の中で利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭スペースのベンチやデイルームの畳コーナー等入居者がそれぞれゆったり過ごせる居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人及び家族にできるだけ使い慣れたものや好みのものを居室に入れてもらうことを勧めている。また、ベッドではなく布団が好きな利用者には居室に畳を用意し、布団を敷いてもらうという配慮をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室及び共有スペースは日中常に換気に心がけている。また、共有スペースには空気洗浄機を設置している。さらに、利用者の体調により、居室へ加湿器を設置するなどし、常に換気、空調にはきめ細かく対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口、廊下、浴室、トイレなど生活の腫瘍個所には手すりを設置し、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはわかりやすく表札を設置し、トイレも大きな字で表示する等し、場所間違い防止の工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りはテラスとしてゆったり過ごしたり、園芸活動ができるようになっている。ベランダは転倒予防のため、職員同行で過ごしてもらうようにしている。		ベランダでも利用者が思い思いの時間に楽しく過ごせるよう、段差の解消や手すりの設置に取り組んでいきたい。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

普通の生活、それぞれの利用者に思い思いの生活をしてもらうよう心がけている、また、自らが認知症になったときに暮らしたい生活空間を常に心がけ、あらゆる面で各職員が気配りを行っている。「庭のテラスでコーヒーを飲みながら海を眺める」そんなゆとりのあるグループホームである。介護面では、常に利用者の心を尊重し、何気ない介護と自立した生活が出きるよう気を配り、相手の立場にたって物事を考え、支援するようにしている。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム マリンヒルズうつみ (ユニット2階)

評価年月日 2008年 5月 29日

記入年月日 2008年 5月 7日

記入者 介護支援専門員 氏名 中崎 信子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	普通の生活をしていただく。笑いとお楽しみのある生活をしていただく。みんなの生活に歩調を合わせる。思い出を大切に、無理をしない。を理念とし、私たちはいつも心がけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、わかりやすく表現し、スタッフルーム及びデイルームに表示している。		月1回の職員カンファレンス時に再度全員で読むなどし、定期的に確認を行いたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、家族会を通じて、理解してもらえよう取り組んでいる。また、家族来訪時にホーム内に掲示してある理念をみてもらったりしている。地域の人々に対しては、家族会の構成員である地区自治会長や民生委員の方に理念を理解してもらおうことにより、浸透してきている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	散歩途中など気軽に声をかけあったりしている。また、地域の方が散歩途中にホーム庭で休憩したり、利用者や職員と話をしたりと日常的なつきあいができている。地域のマラソン大会では庭を休憩場所とし、トイレも自由に使用できるよう開放している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーに地区自治会長が在籍していることもあり、敬老会での歌の披露など地区の行事に積極的に参加することができている。また、共に周辺道路を掃除したりし、積極的に交流を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者の農作業を手伝ったり、近隣道路の草刈をしたりしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価において不十分だった点、外部評価において指摘のあった点等事業所として、よりよいサービス提供を目指し改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者やサービスの実際等についての報告や話し合いを行うと共に、評価への取り組み状況等について報告等を行い、運営推進会議で出た意見を職員カンファレンスの中で話し合い、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>常時、市町村担当者と行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度については、ホーム入り口にパンフレットにおいて必要な方には持って帰ってもらい、契約時に必要な方には制度について説明をおこなっている。職員への説明や研修が少し不十分である。</p>		<p>職員カンファレンスの中で権利擁護に関する制度理解と活用について社会福祉士による説明会を行うことを計画している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員カンファレンスの中で高齢者虐待防止関連法の伝達研修を実施しているが理解が不十分である。</p>		<p>社内研修を次月度以降に行う予定である。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解を得てもらった上で、契約書等の署名をしてもらっている。ケアマネはグループホーム入所困難者や一人暮らしの人等の次の入院、入所先を決め相談に乗り、定期的に後の支援をしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や苦情は記録し、問題点や改善策を利用者相談委員会の中で協議し、対応している。また、市町村の苦情窓口も重要事項説明書に記載し、ホーム玄関にも掲示している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヵ月ごとの介護計画の説明、同意と同時に、定期的に家族へ報告を行っている。また、家族会開催時や健康状態等変化時や家族訪問時には、随時報告を行っている。預かり金の出納については、領収書のコピーと金銭利用状況を月1回家族に郵送し報告している。職員の異動等については、月1回発行のホーム便りで報		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の協議の中及び家族訪問時に召集した家族からの意見等は真摯に受け止め、できる限り運営に反映させている。外部者へ表せる機会については、契約時に重要事項説明書の中で、市町村の苦情窓口及び第三者（内海福祉在宅福祉センター）の苦情窓口を説明している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のカンファレンスの中で意見や提案を聞き、職員間で話し合った上で可能な限り実施している。また、職員から運営者及び管理者に口頭で言いにくい意見もあるので、スタッフルームに意見箱を設置し、意見を文書で聞く方法も実施している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	話し合いをし、勤務調整を行っているが、職員の確保に苦慮している時間帯もある。本部よりヘルパーの派遣支援を受けている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は現在ほとんど実施していない。離職も必要最小限に抑える努力をしている。管理者の交代は開設以来実施していない。離職をする際、必要な利用者には伝え、離職する職員と利用者との間に話し合いをする機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修については、運営規定の中で毎年計画し、実施している。法人外研修については、管理者、職員とも随時受けさせてもらい、研修報告書を提出している。今年、社会福祉士1名、介護福祉士1名資格取得し、現在、法人内に勤務しながら介護福祉士、認知症ケア専門士の資格取得を目指している職員が数名いる		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな管理者及び職員研修に参加させていただくことにより、地域の同業者と交流し、徐々に相互訪問が現実のものとなってきた。また、地域高齢者ケア会議に出席し、現在、ネットワークづくりとサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のみが休憩できるスペースが確保されている。また、管理者及び職員のための親睦会も年数回ある。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者である社長も、月数回日勤帯及び夜勤帯の勤務及び職員カンファレンスへの参加をすることにより、管理者及び職員の努力や勤務状況を把握している。また、各自に向上心を持って働けるようなアドバイスをしたり、資格取得をすすめている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から困っていることや不安なことを相談時に聴ける場合は聴き、できる限り希望に添えるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時または利用に至るまで随時、家族の困っていることや希望を聴き、できる限り希望に添えるよう努力している。また、家族会の運営状況も相談時に説明し、利用後の体制も説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者判定基準チェックリストにより、より入居が必要な方を見極め、他のサービスによる支援の方が必要であると思われる方については他のサービスを紹介したり、医療機関（精神科等）受診をすすめたりという対応を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が女心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人又は家族がサービスの利用に不安な場合は「お試し入所」というかたちで契約前に雰囲気を感じてもらうことも実施している。また、職員は利用者の生活歴や生活環境を確認し、その人にあった接し方をし、馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、肩をもんだり、もんでもらったりする等共に時間を過ごし、信頼関係構築に努めている。また、職員が生まれていない時代の出来事を利用者から聴いたりし、喜怒哀楽を共にし、学ぶことは多々ある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	イベント時は家族会を通じ、それぞれの家族に声をかけ、参加していただける家族には参加してもらい、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いていくことに努めている。また、家族訪問時には随時コミュニケーションをとっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の健康状態が変化した場合だけでなく、本人が良い状態（笑顔が増えた等）になったときも、家族訪問時や電話で報告しよい関係が続くよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中のドライブ時に各利用者の住んでいた地域に出かけ、その地域の場所や人を説明してもらおう等し、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	月1回の職員カンファレンスや朝、夕の申し送り事項の中で、利用者同士の関係に変化があったことなどは職員間で確認している。また、朝の体操、イベントなど利用者同士が関わりあう場をつくり、支えあえるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関入院等による契約終了者は、医療機関を訪問した際に立ち寄りコミュニケーションをとったりし、つきあいを大切にしている。また、退院後再入所のケースも多々ある。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族に希望や意向を聴き、介護計画を立案している。また、日常のケアの中で随時、意向の把握に努めている。困難な場合は、手を握ったり、表情で確認したりしている。さらに、毎月1回のケアカンファレンスの中で、利用者の立場にたち検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の申し込みの際、アセスメントを行い、生活歴や生活環境やサービス利用の経過など家族及び本人に聞き、記録している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各職員担当利用者を決め、把握するよう努めている。また、心身の状態等は介護日誌に記録している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向や医師の指示を反映し、介護計画を作成している。また、職員ケアカンファレンスの中で話し合ったケア方法等も介護計画に活かしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1回見直しを行っている。状態等変化が生じた場合にはその都度、話し合いをした上で、計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等時間帯別に個別の介護日誌に記入し、情報を共有しながら、介護計画の見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅帰省時のライフサポートの利用等多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の警察署には利用者不明時の協力をお願いしている。消防署には消防計画の作成相談や点検報告など定期的に訪問し、アドバイスをいただいている。また、創立記念日には地域の保育所の園児を招待し、交流する機会をつくっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	金銭的理由や嚔下状態の悪化等の場合、地域の他のケアマネ等と話し合い、他のサービスを利用するほうが望ましいが等本人の意向も確認しながら協議し、他のサービスを利用するための支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援2の利用者においてケアマネジメントをしてもらっている。運営推進会議に地域包括職員に参加してもらい意見交換している。		さらに、地域包括支援センター及びサブセンターと協働する機会を増やしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	やむを得ない場合を除き、入居時に主治医を変更してもらうことはない。現在5病院の往診がある。また、往診のない医院が主治医の場合やNS判断による受診必要時には受診支援をしている。さらに、訪問看護ステーションの看護師による健康管理も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院の1つが認知症の専門医院である。ケアマネ、運営者が認知症実践者研修に参加、終了している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護職員、訪問看護ステーションの看護職員及び往診医療機関の看護職員と気軽に相談しながら、健康管理や医療活用の支援を行っている。訪問看護、医療記録をつくっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者等が入院時、定期的に医療機関に訪問し、本人への心のケアや病院関係者との情報交換をしている。また、家族が遠方等の理由で医療機関に行けない場合は、タオルを交換しに行ったり、衣類を持って行ったりという支援をしている。地域ケア会議で病院関係者の出席があり連携をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を契約時に書面及び口頭で説明し、重度化した場合は、本人、家族、主治医と協議し、方針を確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者については、特に慎重に職員カンファレンスを行うと共に、主治医の指示や看護職員の意見を取り入れ支援している。また、他のサービス利用の方が望ましいか等検討し、必要時には他のサービス事業者の職員に状態を確認してもらっている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境を変えることが望ましい場合等、本人及び家族、主治医等と十分な話し合いをした上で、住み替えを行ってもらっている。入居時のアナムネ、在宅での居室の様子をきいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護のマニュアルがあり、入社時に研修を実施している。自尊心を尊重したケアを行い、個人情報については、職員に誓約書を書いてもらうと共に確実な取り扱いを行っている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望を表せるような声かけをしたり、認知症の状態等によりその人に合わせた説明等を実施している。また、できるかぎり本人に納得して暮らしてもらえるよう支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩したい、ドライブに行きたい等できる限り各利用者の希望に添えるような支援をしている。また、理念にもあるようにそれぞれの利用者の歩調に合わせた支援をしている。さらに、朝食は決まった時間を設定せず思い思いの時間（6時以降）に食べてもらっている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	介護側の都合による衣類は使用してもらわず、思い思いの衣類を着てもらっている。理美容店への送迎は希望者には随時おこなっている。また、ホーム内散髪も行っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理や配膳、下膳、茶碗ふき等は可能な方には職員と共に実施してもらっている。食事（昼、夕食）は現在、利用者と職員は別の時間帯になっている。イベント時（花見、バーベキュー等）は共に食事をし、食事の楽しみを共感している。	イベント時等共に食事をとる回数を増やしているが、食事介助必要者の人数やダイルームのスペース上、通常の食事を共にすることはできていない。職員及び利用者の協力を得て、実施に向けて取り組んでいきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ、たばこ等は好みのものを状況に合わせて楽しんでもらっているが、お酒は病歴にアルコール依存症の方が数名在籍しているため、現在禁酒としている。たばこは職員が確認して渡している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>日中はできるだけ自立によるトイレでの排泄をするよう支援している。夜間は必要に応じ居室にポータブルトイレを設置し、おむつの使用をできるだけ減らし、気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望があれば、その都度健康状態確認後、入浴を楽しんでもらっている。また、貝堀り等で衣類が汚れたりしたときは、夜間等必要に応じた入浴支援をしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>換気や空調にも配慮し、休息や安眠できるよう支援している。また、室内にできるだけ臭いが残らないように各職員が配慮(換気等)してる。さらに、夜の就寝時間は自由にしてている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>洗濯物たたみやカラオケ、園芸活動、散歩、朝の体操、日光浴等それぞれの生活歴や力を活かしたことを実施してもらっている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や力に応じて、可能な範囲でお金を所持してもらい買い物などで使えるよう支援している。本人及び家族がホーム側で預かってほしいという方に関しては、ホーム側で預かり金として預かっている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物、散歩、日光浴、ドライブ、地域行事への参加等できるかぎり戸外へ出かけられるよう支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族の墓参りや受診したい病院等遠方であっても機会をつくり対応している。また、ドライブ希望があれば、できる限り対応している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者は電話を日常的に使っている。手紙については、字がうまく書けない人の代筆も行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間は設定せず、家族等がいつでも気軽に訪問できるようにしている。また、庭のテラスで共にコーヒーを飲んでもらったりし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の日誌に毎日身体拘束がないかチェックしている。また、身体拘束禁止委員会を設置し、禁止の対象となる行為がないか毎月チェックしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室に鍵はなく、日中は玄関は施錠せず自由に入居者も出入りしている。また、気候のいい時期は扉を開放している。夜間のみ防犯上玄関は施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員1人に対し3人の利用者を把握するようにしている。また、1日4回全利用者の所在確認をし記録している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に注意が必要な物品はスタッフルームで管理しているが、その人の状態に応じてはさみ等所持してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのマニュアルをスタッフルーム内に掲示し、周知している。行方不明については、職員による手分け捜索経路も周知している。また、災害時の対応を学ぶため、全職員消防署による救急救命・心肺蘇生講習を受講。消火訓練も実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	誤嚥したときの応急処置など管理者及び看護職員から職員へ実演研修を行い、周知した。事故発生時の対応マニュアルも整備している。消防署の協力を得て、救急救命講習を実施。		新規採用職員への実演研修や訓練が未実施であるので、次月度には実施したい。また、今後定期的に行うことを計画している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域及び他施設と連携し、万が一のための避難場所を確保している。ライフラインがストップした時の非常食は常備している。地域自治会に災害時の協力依頼をお願いし了承を得ている。		消防署と協働し、避難訓練を計画中である。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の危険性があること等契約時に家族に説明している。また、状態が変化したとき（嚥下状態低下等）など、家族の意向を確認し、対応を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝すべての利用者のバイタルチェックを行い、また、数値変動者等は1日3回のバイタルチェックを行っている。入浴時にもその都度皮膚の状態確認を行っている。体調の変化があった場合は、個別ファイル及び申し送り生活記録に記載し、確実な情報の共有を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬状況は、個別ファイルに処方箋をファイルし、各職員が確認している。また、薬の内容が変わった場合は、申し送り生活記録に記載し、朝、夕2回伝達を行い、服薬状況を各職員が確認している。薬が変わったことにより、利用者の症状が変化した場合は、適宜、看護職員から主治医に連絡を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	確実な水分補給、散歩等の適度な運動、服薬による予防等を行い、便秘の予防に努めている。嚥下状態が悪い利用者には、寒天ゼリーによる水分補給を実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ、毎食後口腔ケアを行っている。また、入れ歯は、最低週1回は消毒し、清潔保持に努めている。さらに、口腔内に変化が生じた場合は、随時、歯科医院に連絡し、往診してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、利用者ごとに毎食後記録し、確認している。摂取量が不足している方にはエンシュア等を摂取してもらい、栄養摂取の支援をしている。水分については、定期時間及び有熱時等は随時行うと共に、希望者にはペットボトルにお茶を入れ、所持してもらい、1日最低1回はお茶を交換している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のため、インフルエンザ予防接種は、全職員、全利用者(家族確認後)に行っている。また、他の感染症を予防するため、玄関での手指のアルコール消毒、手洗い・うがいの励行、食器、ふきん等の塩素消毒を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具は使用後塩素消毒を徹底している。また、調理に携わる職員及び利用者は、手洗いを確実にを行い、アルコール消毒後、作業している。食材は、冷蔵庫及び食品庫に保管し、先入れ先出しを徹底すると共にできるだけ短期間で使用するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 事 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は庭は開放し、利用者、家族及び地域の人がいいつでもゆったりして過ごせるよう、イス、テーブルを置き、また常に草花をたくさん配置し、楽しめるようにしている。また、気候のいい時期は玄関扉を開放している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやダイニングセット等家庭的なものを使用し、デイルーム等共有スペースには常に季節の草花を飾るようにしている。また、共有の空間にイベント時の写真を飾ったりし、常に家庭的な雰囲気の中で利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭スペースのベンチやデイルームの畳コーナー等入居者がそれぞれゆったり過ごせる居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人及び家族にできるだけ使い慣れたものや好みのものを居室に入れてもらうことを勧めている。また、ベッドではなく布団が好きな利用者には居室に畳を用意し、布団を敷いてもらうという配慮をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室及び共有スペースは日中常に換気に心がけている。また、共有スペースには空気洗浄機を設置している。さらに、利用者の体調により、居室へ加湿器を設置するなどし、常に換気、空調にはきめ細かく対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口、廊下、浴室、トイレなど生活の腫瘍個所には手すりを設置し、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはわかりやすく表札を設置し、トイレも大きな字で表示する等し、場所間違い防止の工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りはテラスとしてゆったり過ごしたり、園芸活動ができるようになっている。ベランダは転倒予防のため、職員同行で過ごしてもらうようにしている。		ベランダでも利用者が思い思いの時間に楽しく過ごせるよう、段差の解消や手すりの設置に取り組んでいきたい。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

普通の生活、それぞれの利用者に思い思いの生活をしてもらうよう心がけている、また、自らが認知症になったときに暮らしたい生活空間を常に心がけ、あらゆる面で各職員が気配りを行っている。「庭のテラスでコーヒーを飲みながら海を眺める」そんなゆとりのあるグループホームである。介護面では、常に利用者の心を尊重し、何気ない介護と自立した生活が出きるよう気を配り、相手の立場にたって物事を考え、支援するようにしている。